

備える。

準備。予備。整備。装備。守備。警備。
そなえる…用意する、そろえる、用心する
防備。常備。完備。不備。具備。兼備。
そなえ…したく、用意。警戒。防衛
備品。設備。備蓄。備員。備考。備忘。
そなわる…準備ができる、身に付く
●●●ソナエ アレバ ウレイナシ!!

no.
16

かわさき
防災広報紙

昭和60年11月30日発行
編集・発行：
川崎市土木局防災対策室
〒210 川崎市川崎区宮本町1番地
TEL.(044)200-2111内線2841



いっしょに 用心!

10月4日午後9時26分、比較的大きな地震が、川崎で感じられました。東京では、昭和4年以来の震度5、川崎市内でも震度4相当で、「ひさしぶりに、ドキッ」。

ご用心!

その日のうちに行われた、消防局の電話アンケートによると、そのとき火を使っていた人の約90%が、まず火を消しています。食事もおわり、火を使っている人が、比較的少なかったせいも、火災は一件もありませんでした。メキシコで起こった大地震の惨状の記憶が、まだ十分に残っているときでもあり、地震についての関心が高かったようです。
そのとき、あなたは?——十分な身の安全の確保と火の始末はできましたか。

ふだんが、肝心!

これから一年のうちで、火を使うことが一番多くなる季節……。

地震のときの火災はもとより、ふだんの暮らしの中で、

火災をふせぐ注意の積み重ねが、〈大地震〉のときの火

災を防ぐことにつながっていきます。

そのためには、ふだんから

火を正しく使うように心がける

どんな小さな地震でも火を消す習慣をつける

自主防災組織（町内会・自治会）の防災訓練に参加

する

などの点に心がけておきましょう。

火も用心!

★ 毎月15日は川崎市民地震防災デーです ★

ふだんから、備える。

特に、東海地震の発生が
予知(警戒宣言)が発令されたとき

ふだんから、 火の用心!

ふだんからの
一つひとつの
積み重ねが、
地震のときの
火の始末にも
結びつきます。

日々の用心!

- たばこの投げ捨てや寝たばこはしない
- 子供に火遊びをさせない
- 家のまわりに燃えやすい物を置かない
- ふろのカラダきをしない
- 天ぷらなべを火にかけたまま、その場をはなれない
※ちやうとも離れるときは必ず火を消す
- コロの消し忘れ、切り忘れに注意し、
ガス器具は使い終わったら器具栓だけでなく元栓もしめる
- ストープやコンロなどの器具に故障や欠陥がないか。
また近くに燃えやすいものを置かない。
- 灯油、ベンジンなどの危険物は、火元から
離れた場所に安全に保管する。



ホーサイ君



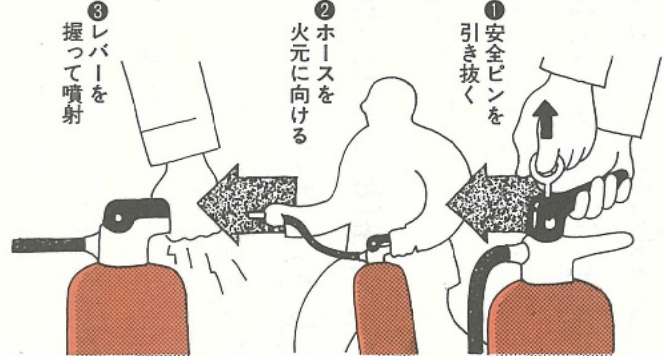
小さな地震でも「地震防災一声運動」を

「火はだいじょうぶですか」「けが人はいませんか」と、地震のときに、となり近所と声をかけあう「地震防災一声運動」は、火災の防止とけが人の迅速な応急手当てに結びつき、地域の安全に大きな力になります。

秋の火災予防運動

- ◆ 交通事故と同じように、火災でも、お年寄りや小さな子供体の不自由な方の犠牲が多くなっています。十分な注意が必要です
- ◆ 地震や火災について、わが家で十分に話し合いますよう
- ◆ 防災訓練に参加しましょう

身の回りの安全レッスン 消火器の 使い方・置き場所



● 防災訓練で消火する要領を実際に体験してみましよう

置き場所

- すぐ目につき、すぐに使えるところ
 - 倒れたりする心配のないところ
 - 台所など火をよく使うところの近く
 - 火に対して、より出口に近いところ
- ※悪質な消火器の訪問販売に十分に注意を!

地しん

68十勝沖地震の記録 八戸市提供から
十勝沖地震 昭和43年5月16日 M7.9 八戸震度5
三条小学校四年(当時) 松倉宏往さん

『心ぞう ドドキ』

5月16日、午前9時49分50秒、しん度5の地しんが、なん10人ものちをさらった。

その日、ぼくは、かぜをひいて学校を休んでいた。氷まくらをして、いい気持ちでねていると急に、ギチギチと音がして、グラグラとゆれた。ぼくは、地しんだと思ったが、すぐとまるだろうと思って、だまっていた。すると、はげしくゆれてきた。

ぼくは、あわててとびおきた。あるこうとしてもグラグラゆれておかない。とちゅうで柱につかまったり、ころびそうになったり、おまけにくつものはかないで、にわへとびだした。「はやくこっちへい。」とお父さんがさげんだ。はしって

と、お父さんがさげんだ。はしって

いこうしたらどろんこにすべってころびそうになった。お父さんは、さつとぼくをだいた。

いもうとは、地しんよくしらないのでひしゃくをかたてにもち、ほそい木につかまってぼかんとした。そのとき、ひろし君の家のプロパンガスがころんでシューシューと、ふきだした。お父さんは、ゆれていゝるのに、走っていつてもとせんを止めた。

こんどは、ひろし君のとなりの家のプロパンガスがころんで、ガスをふきだした。おとうさんは走っていつてだいかつやくをした。

家を見るとギーコ、ギーコとゆれていた。やがて、ゆれがおさまった。家の中を見るとかべがおちたり、戸があかなくなったり、とだながうらへころんだりして、ごちゃごちゃになっていた。

むかいのひろし君の家のおばあさんの家は、まがって中は、白かべが落ちて、あながあいて、ひどくなっていた。

また、ひきつづき、よしんがあつた。そのばんは、ようふくをきたままコタツにねた。7時ごろまた、しんど4の地しんがきた。

「またか。」
と、おとうさんがさげんだ。はしって、大きな石につかまったり、昼の地しんよりよわかったが、やっぱりこわかった。心ぞうがドドキキなっているのが自分でもわかる。

それからというもの、ちよつとの音にもおびえてすぐ地しんだと、とびおきる。

ぼくは、すっかりきようふしようにかかった気がする。

もう、あんな、こわい地しんはこりりだ。

防災センター集会室・学習室の「利用を!!」

10月4日、東京で震度5の地震を感じましたが、みなさんのご家庭の防災対策はいかがでしたか。地震への備えは日ごろの準備が大切です。そこで、いかにも「地震に備える」という雰囲気の漂うピラミッド形をした防災センターで、一味がかった防災を学習してみませんか。防災センターには、150名収容の集会室をはじめ、学習室、放送設備、防災映画、地震体験装置などもあります。自主防災組織をはじめ町内会・自治会その他いろいろな団体のみなさんのご利用を、お待ちしております。家庭や地域の防災活動のためぜひご利用ください。

また、あわせて防災センターの見学もおすすめします。防災センターの「地震の備え」を、ぜひご覧ください。

●ご利用・ご見学のお問い合わせは
川崎区小田7-3-1
川崎市南部防災センター
☎=355-2175
交通=国鉄川崎駅東口9番バス乗り場
臨港バス 富士電機行
「小田小学校前」下車 徒歩6分